

韓国の教育現場レポート

－慶尚大学校・釜山教育大学訪問を通じて－

本多 真理ⁱ

1. 招聘講演と訪問概要

2025年3月19日（水）、明治大学所属の土居拓務先生が韓国・晋州市に所在する慶尚大学校（Gyeongsang National University）から招聘を受け、元韓国経済教育学会長である金景模（Kim Kyung-Mo）教授の講義内にて特別講演を行う機会を得た。本稿の筆者は土居先生に随行し、慶尚大学校における金教授および高校教員志望の大学生との交流を通じ、多角的な視点を学ぶ貴重な経験を得ることができた。

2. 地域活性化に関する比較考察

この2泊3日の訪問期間中には、釜山教育大学校の金龍珉（Kim Yong-Min）教授をはじめ、多くの研究者・教育者と意見交換を行う機会に恵まれた。主な議論のテーマとしては、韓国と日本における文化の類似点と相違点が挙げられるが、特に興味深かったのは両国の地域活性化の現状にみられる共通点である。金龍珉教授によれば、韓国では政府主導で地域活性化政策が進められてきたものの、顕著な成果には至っていないという。一方、日本では政府・市区町村・民間など多様な主体が取り組みに関わっているが、文化的背景や社会的構造の差異が大きく、地域活性化が円滑に進まない現状は日韓共通の課題であると認識された。

3. 日韓間の共同研究の可能性

これらの状況を踏まえ、日韓間で地域活性化の知見や具体的事例を共有し、意見交換や共同研究を推進することが両国の課題解決の糸口になり得ると考える。筆者自身は、まず日本と韓国の地域活性化に関する研究に着手し、両国の教授陣や専門家をつなぐ架け橋としての役割を果たしたいと考えている。これによって、従来は地域内の意見交流にとどまっていたアイデア導入が、海外との連携によってさらに促進され、より発展的な成果が生まれることが期待される。

4. 今後の課題と方法論の再考

今後は、これまでの研究手法という既存の枠組みを踏襲するだけでなく、比較研究の対象範囲や情報収集の方法を再検討するなど、積極的に新たなアプローチを模索していきたい。また、本交流においてお世話になった韓国の教授陣や学生の方々、そして同行いただいた水野先生、土居先生、月岡先生への感謝の念を忘れず、得られた貴重なご縁を研究に活用していく所存である。



左から筆者・本多真理、月岡忠先生（杉並学院高等学校非常勤講師）、土居拓務先生（明治大学兼任講師）、水野勝之先生（明治大学教授）



左から筆者・本多真理、Kim Yong Min 先生（釜山教育大学）



講演風景：左から Kim Kyung Mo 先生（慶尚大学校）、土居拓務先生（明治大学兼任講師）



講演風景：月岡忠先生（杉並学院高等学校非常勤講師）による日本の教育現場の紹介

ⁱ 公立法人都留文科大学教養学部地域社会学科1年、訪問時は私立杉並学院高等学校3年であった。